

## メッセージアウトライン

### 創世記 3:20 ~24 「エデンの園からの人の追放」

[20]「さて、人は、その妻の名をエバと呼んだ。それは、彼女がすべて生きているものの母であったからである」

創世記 2:7 では「神である主は土地のちりで人を形造り、…」とあり、「土地」は原語のヘブル語では「アダーマー」であり、そこから人は取られたので「アードーム」と呼ばれるようになった。日本語ではアダムと訳されている。このアダムは妻の名を「エバ（原語ではハバ）」と呼んだ。その理由は彼女がすべて「生きているもの（原語ではハイ）」の母であったからと説明されている。これは文法的な理由からではなくごろ合わせであったであろう。3:19 節の人への死の宣告がなされた後に、アダムが妻に「すべて生きているものの母」であるとしてエバと名をつけたことは注目に値する。15 節の女の子孫としてやがて救い主が現れるという原福音を聞いたとき、彼はこれを信じ、罪ある者としての弱さの中で、新しい希望の告白とも取れる命名をしたのであろう。

[21]「神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を作り、彼らに着せてくださった」

彼らは墮落の直後、いちじくの葉をつづりあわせて腰のおおいを作った(7)が、それは一時的でまったく不適當なものであった。それで神は皮の衣を彼らのために作り、着せてくださった。罪を犯したとはいえ、神は彼らのために配慮してくださっている。しかし皮の衣を神はどのようにして作られたのか。天地創造の時のように何も無いところから、神はそれをお作りになることができるが、この場合には神は動物を殺し、その血を流し、彼らのために皮の衣を作られたと思われる。これは血を流すことによるのみ、罪の贖いがなされることの最初のひな型であった。

[22-23]「神である主は仰せられた。『見よ。人はわれわれのひとりのようになり、善悪を知るようになった。今、彼が、手を伸ばし、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きないように。』そこで神である主は、人をエデンの園から追い出されたので、人は自分がそこから取り出された土を耕すようになった」

ここでも 1:26 節と同様に三位一体の神の話し合いの姿が描写されている。神は唯一であるが、また三つの位格（父、子、聖霊）をもっておられるのである。神の話し合いは、人が「われわれのひとりのようになり、善悪を知るようになった」ことを認めている。人はかつては神の善のみを知っていたが、罪を犯すことによって悪も知ることとなった。人の心は悪に傾き、善を憎むものとなってしまった。「われわれのひとりのように」とは「神のように」という意味である。神から離れたこと自体、神に対抗する存在となることであり、それはある意味で神のようになったことを意味する。しかし、このようなかたちで神のようであることは、正しい意味での神のようであるということではなく、神に反対する者、悪の奴隷としてそうなったに過ぎない。人はそのことを実際の生活経験において知ることになる。

人がエデンの園で罪ある者としていのちの木から取って食べ、永遠に生きる

ようになったならば、そのような状態は罪の中での不死であり、限りなく悲惨な状態が続くことになる。それは聖書が教えている「永遠のいのち」ではない。

→ヨハネ 3:16、ローマ 6:22~23

それゆえ、神は人をエデンの園から追い出されたのである。これは刑罰であるとともに、人が永遠に悲惨な状態に陥ることのないための恵みでもあった。人はその置かれた新しい環境で神を求め、神に立ち返り、神に従う生き方を学んでいかなければならないのである。

[24]「こうして、神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東に、ケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた」

「ケルビム」とは「ケルブ」の複数形で最高の位置を占める天使のことと思われる。

これについては→エゼキエル書 1:4~28,10:1~22,黙示録 4:6~8 参照

サタン自身かつては、神の聖なる山で「油注がれた守護者ケルブ」であったといわれている。

→エゼキエル 28:14

神は人がエデンの園に入り、いのちの木に近づかないようにエデンの園の東に、このようにケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれたのである。

人は罪を犯したために、このようにエデンの園から追放されたが、それは神が人を見放されたのではない。神は彼らのために皮の衣を作り、着せてくださった。そしてそれは血を流すことによってのみ人の罪が贖われるということの最初のひな型であった。人はこれから一生苦しんで食を得なければならず、額に汗を流して糧を得、ついには土に帰らなければならない者となったが、その生活の苦しみの中で神を求め、神に立ち返り、神に従う生き方を学ばなければならないのである。

私たちもこのアダムとエバの子孫として今日この地上で様々な困難の中で生活している者である。しかし、神はすでに私たちに救い主イエス・キリストを与えてくださった。このお方は動物の血ではなく、罪のないご自身の血を流して私たちの罪を贖ってくださった。私たちは自分の罪を悔い改めてこのお方を救い主として信じ受け入れ、神のみこころに従って生き、本当の永遠のいのちをいただく者とならなければならない。